

公益財団法人 檉の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		①作成日	令和 8 年 5 月 29 日
②法人・団体名	NPO 法人 eboard		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	兵庫県西宮市		
④責任者氏名	中村 孝一	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	吉永 恵里	(役職名等)	ファンドレイズ担当

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R07-030	⑦助成金額	100 万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	高校受験に対応した無償デジタル教材の拡充および 学習支援団体の支援力向上プロジェクト				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	オンライン				

⑪活動内容とその成果の概要

【活動内容】

ICT 教材 eboard を利用するご家庭のうち、28.1% (5,789 件) が「経済的な理由から他の教材・教育サービスの利用が難しい」と回答しており、eboard が無償で利用できる学習機会として、経済的困難を抱える家庭におけるセーフティネットとして機能していることがうかがえます。一方、支援現場からは「高校受験に向けた演習問題が不足している」との声も寄せられていました。こうした課題を踏まえ、本助成では、高校受験を想定したデジタルドリルの機能および問題の拡充を行い、家庭学習に加え、全国の学習支援団体における支援力向上を目指しました。

【活動成果】

- ICT 教材 eboard に「演習モード」を追加、デジタルドリルを 16,000 問追加
- ICT 教材 eboard の活用や学習支援に関するセミナーを開催
 - 3/27 (金) 16:00~17:00 参加者：17 名
 - 4/6 (月) 12:00~13:00 参加者：14 名
- 経済的困窮家庭の子ども達を支援する学習支援団体拠点への活用サポート

⑫奨学活動の定量的把握

支援対象	延べ人数 (A 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
------	---------------	------------------	----------------	-------------

【様式 3 - 1】

中学生等	24,840	1 時間	141,626	ICT 教材 eboard の利用時間を月 1 時間と想定
学習支援員等	2,484	1 時間	1,080	ICT 教材 eboard での支援時間を月 1 時間と想定
合 計			27,324	

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：高校受験に対応した無償デジタル教材の拡充および
学習支援団体の支援力向上プロジェクト

法人・団体名：NPO 法人 eboard

作成者 氏名：吉永 恵里

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

ICT 教材 eboard は、経済的な理由や不登校、障害等の事情により学習機会が届きづらい子どもたちを主な対象として、ご家庭や非営利団体、公立学校に無償で提供しているデジタル教材です。eboard を利用するご家庭のうち、28.1%（回答数：5,789）が「経済的な理由から他の教材・教育サービスの利用が難しい」と回答しており、学習塾等を利用しづらいご家庭にとって、eboard が学習機会を支えるセーフティネットとして機能していることがうかがえます。

一方で、経済的困窮家庭の子どもたちを支援する学習支援団体等からは、「eboard は基礎・基本の学習を丁寧に進められる一方で、高校受験を想定した学習においては、演習問題の量が不足している」との声が寄せられていました。こうした課題を踏まえ、本活動では、高校受験を見据えた学習環境の整備と、学習支援団体における支援力向上を目的として、ICT 教材 eboard のデジタルドリル機能および問題の拡充に取り組みしました。

具体的には、既存の「基礎モード」に加え、單元ごとに問題演習へ取り組める「演習モード」を開発・公開しました。演習モードでは、学習者が難易度や問題数を選択しながら、自分の理解度や学習時間に応じて演習量を確保できます。これにより、家庭学習に加え、学習支援団体等の現場においても、子どもたち一人ひとりの状況に応じた演習機会を提供しやすくすることを目指しました。

2. 実施した奨学活動の詳細

(1) 演習モードの開発・公開

本活動では、ICT 教材 eboard 内に新たに「演習モード」を開発・公開しました。申請時には、中学 5 教科（国語・数学・理科・社会・英語）および復習に必要な小学算数等を中心に約 5,000 問を追加する計画としていましたが、実施にあたっては、利用ニーズや高校受験に向けた基礎学力形成における重要性を踏まえ、英語および算数・数学の強化を先行して行いました。

その結果、助成期間を経て、英語（中学・高校）の全單元および、算数・数学（小学・中学）の全單元で演習モードを公開することができました。

追加した問題数は、英語約 4,400 問、算数・数学約 12,300 問、合計約 16,700 問となり、申請時に予定していた約 5,000 問を大きく上回る形で教材を拡充することができました。

中学数学

1%

因数分解

学習の進め方（学習モード）を選びましょう

▼ 基礎モード
動画を見た後に問題を解いていきます。苦手な単元の復習や予習におすすめ。

✎ 演習モード（おためし版）
問題をどんどん解いていきます。わからないときは、動画で確認もできます。

出題される問題の難易度を選んでください。

☒ かんたん
☒ 普通
☒ 難しい

出題される問題の数をを選んでください。

10問

スタッフ向け設定

出題順

ユーザと同じくランダム

学習をはじめる

▲演習モードの難易度・問題数選択画面

< 中学数学にもどる

✎ 因数分解

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

次の式を因数分解しよう。

因数分解の公式： $x^2 + 2ax + a^2 = (x + a)^2$

$x^2 - 8x + 16 = (x \quad)^2$

💡 ヒントを見る

答えあわせ

▲演習モードの問題画面

(2) セミナーの開催・周知

拡充した教材をより多くの学習支援現場で活用いただくため、ICT 教材 eboard の活用や学習支援に関するオンラインセミナーを開催しました。セミナーでは、eboard の基本的な活用方法に加え、今回新たに整備した演習モードの使い方や、学習支援現場における活用の考え方について紹介しました。

- 2026 年 3 月 27 日（金）16:00～17:00 参加者：17 名
- 2026 年 4 月 6 日（月）12:00～13:00 参加者：14 名

周知にあたっては、既存の利用団体・関係団体へのメール等を通じて案内を行い、全国の多様な学習支援現場での活用を想定して情報提供を行いました。

（3）学習支援団体等での活用、支援対象者数

本活動で整備した演習モードは、家庭から直接 eboard を利用する子どもたちに加え、経済的困窮家庭の子どもたちを支援する学習支援団体、フリースクール、公営塾、地域の居場所型支援など、多様な学習支援の場で活用いただける教材です。上記の団体・拠点で活用いただくことにより、支援員が子ども一人ひとりの状況に応じて演習量や難易度を調整しやすくなり、学習塾等の利用が難しいご家庭の子どもたちに対しても、無償で継続的な学習機会を届けやすくなります。

オンラインで提供される教材であるため、特定の地域に限定されず、全国の家庭・学校・学習支援団体で活用できる点が本活動の特徴です。特に、学習支援団体が少ない地域や、学習塾等へのアクセスが難しい家庭においても、受験に向けた演習量を確保できる環境づくりに寄与しました。

以下に、2025 年 3 月の利用団体数を記載します。

団体種別	団体数
フリースクール	24
学習支援団体・公営塾・居場所型支援など	22

支援対象者については、以下の通り概算値として算出を行いました。

- 各団体の月間延べ支援者数 ※複数箇所のヒアリングに基づく平均的なケースより算出
 - 利用団体数：46 団体
 - 団体あたりの利用者数（中学生）：平均 15 名
 - 支援対象となる中学生：15 人×月 4 回×9 ヶ月=540 人 ×46 団体= 24,840 人
 - 支援対象となる学習支援員：6 人×9 ヶ月= 54 人 ×46 団体= 2,484 人

支援対象	延べ人数 (A 人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A × B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	24,840	1 時間	141,626	ICT 教材 eboard の利用時間を月 1 時間と想定
学習支援員等	2,484	1 時間	1,080	ICT 教材 eboard での支援時間を月 1 時間と想定
合 計			27,324	

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本活動により、英語および算数・数学において、子どもたちが自分の理解度に応じて演習に取り組める環境を大きく拡充することができました。特に、合計約 16,700 問の問題を追加できたことは、当初予定していた問題数を大きく上回る成果であり、高校受験を見据えた学習における演習量不足という課題に対して、具体的な改善につながったと考えています。

また、演習モードでは、難易度や問題数を選択できるため、短時間での確認、苦手単元の復習、受験に向けた反復演習など、家庭学習と学習支援現場の双方で柔軟に活用できるようになりました。先生側管理画面で難易度、回答数、正答率を確認できることにより、支援員が子どもたちの取り組み状況を把握する手がかりにもなります。

今後は、英語・算数数学以外の教科や、今回提供対象外となった高校数学を含め、学習者のニーズや支援現場からの声を踏まえながら、演習機能・問題のさらなる拡充を検討していきます。また、セミナーやメールでの情報提供に加え、実際の活用事例を可視化し、全国の学習支援団体がより効果的に eboard を活用できるよう、支援の仕組みを整えていきます。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等

eboard は、経済的な理由や地域差、学校への通いづらさなど、さまざまな事情によって学習機会が限られやすい子どもたちに、「学びのセーフティネット」として無償で学べる選択肢を届けることを大切にしてきました。本活動を通じて整備した演習モードは、基礎を確認するだけでなく、「もう少し問題を解いてみる」「苦手な単元をもう一度練習する」といった学びの積み重ねを支える機能です。

高校受験を控える子どもたちにとって、演習量を確保できる環境があることは、自分の力を確認し、少しずつ自信をつけていくための重要な支えになります。今後も、家庭から直接利用する子どもたちと、学習支援団体等を通じて学ぶ子どもたちの双方にとって、安心して使い続けられる教材として改善を重ねていきたいと考えています。